第 11 回 鎌倉市廃棄物減量化及び資源化推進審議会 議事録（概要）

日時 平成 27 年 3 月 2 日（月）18 時 00 分～19 時 45 分

場所 鎌倉市役所 第 4 分庁舎 822 会議室

出席 深野会長、浅川委員、久保田委員、大道委員、奴田委員、橋詰委員、保坂委員
<事務局>

環境部 石井部長、植地次長、小池次長、川村次長

資源循環課 内海担当課長、谷川担当課長、佐藤担当係長、安倍職員、松本職員、
大谷職員、古賀職員

環境施設課 遠藤課長

環境センター 杉田担当課長、佐藤担当課長

ごみ減量・資源化推進担当 谷田担当課長補佐

傍聴者 10 名

会議の前に第 10 回審議会の議事録の内容について了承され、公開とすることが確認されました。

議題 1 第 3 次鎌倉市一般廃棄物処理基本計画について

その他 1 次回の当審議会の開催日程等について

議題 1 第 3 次鎌倉市一般廃棄物処理基本計画について

事務局から食品ロスの削減ワークショップ結果概要、事業所のごみ減量ワークショップ結果概要、第 3 次一般廃棄物処理基本計画（骨子案）について説明した後、審議を行った。

深野会長：今回は第 3 次一般廃棄物処理基本計画（骨子案）の網掛け以外の部分について説明いただきました。特に基本理念や、第 4 節の課題についてもアンケートやワークショップを踏まえた具体例が追加されており、前回の計画とは異なっているので、議論を深めていきたいと考えています。

橋詰委員：内容に入る前に、今後のスケジュールがどのようになっているか教えていただきたいです。

内海担当課長：今年度はもう 1 回の審議会開催を予定しております。本日、基本方針及び基本理念についてご意見をいただき、それをベースにして施策の方向性を 3 月末に決定し、来年度具体的な施策について検討していきます。現時点では年内に素案を作成してパブリックコメントを実施した後、来年度内に答申をいただき、策定したいと思っています。

深野会長：平成 28 年度からの計画になるため、平成 27 年度中に策定となるということです。P3 の基本理念と基本方針について、先ほど事務局から仮で副題を付けたとの説明がありました。ご意見があればお願いします。

保坂委員：基本方針 6 の最後の一文に「また、その他の施設のあり方についても検討をすすめます。」とありますが、具体的にどういう施設をイメージされているのでしょうか。

遠藤課長：現在、生活環境整備審議会において、ごみ処理施設のあり方について諮問させていただいています。現在は新ごみ焼却施設の検討を中心に行っていますが、今泉クリーンセンターの停止後の活用についても検討中です。植木剪定材の堆肥化のための中継施設や坂ノ下の不燃ごみ中継施設、笛田リサイクルセンターなど、新ごみ焼却施設を含めた全体の施設のあり方に

ついて考えていきたいと思っています。

保坂委員：基本方針6の最後の一文だけ見たときに、何か色々あって、一つではないのだなという印象を受けます。

深野会長：この一文だけでは分かりにくいというご意見ですが、例示的な表現を入れるとヒントになるかもしれません。基本方針なので具体的には記載できないと思いますが、包括的、概念的に表現を追記してはいかがでしょうか。基本理念については前回のものと同じですが、色あせておらず、なかなか良いのではないかと考えていますが、いかがでしょうか。

保坂委員：「もったいない」という言葉は、ケニアのマータイさんの言葉で有名です。伝わりやすさを考えると良いと思いますが、私はワークショップでの「鉢の木」代表取締役の方の話が印象に残ったので、そういった鎌倉ならではの言葉を見つけるのも良いかもしれません。

小池次長：事務局としても鎌倉らしさについて検討しましたが、具体的な言葉がなかなか出ませんでした。何か良い案があれば伺いたいと思います。

深野会長：事務局も色々考えているようですので、良いアイデアがあれば、今日でなくても良いのでお願いします。

保坂委員：学校の社会科の授業では、鎌倉は武士の文化ですので、「質素儉約」などの話がされているようです。難しすぎない良い言葉があれば良いですね。

大道委員：言葉が一般的に根付いているものであればすっと分かりますが、なじみのない言葉だけを取り上げると、その言葉の説明が必要となってしまうような気がします。「もったいない」は世界共通の言葉になったので伝わりやすいと思いますが、それに代わる鎌倉に根ざした「鎌倉らしい」言葉があれば、理念が活きてくると思います。

深野会長：もう少し分かりやすい、鎌倉らしい新しい言葉が、基本理念にとって重要な役割を果たすということですね。基本方針1は、今後の方向性として2Rを中心とするということで、なかなか良いと思います。

橋詰委員：確認しておきたいのですが、P2では鎌倉市環境基本計画が策定中となっています。環境基本計画との整合性についてはどのように調整する予定なのでしょう。

植地次長：環境基本計画については、計画期間を平成28年度からとしており、平成27年度末までに策定予定となっています。廃棄物処理基本計画との調整については、まだ何もすり合わせをしていません。

橋詰委員：ほぼ同じスケジュールで動いていくということですね。基本理念にも書かれている「循環型社会」の考え方には、「廃棄物」と「資源の有効利用」が含まれていますが、一般廃棄物処理基本計画においてはもちろん「廃棄物」がメインになるかと思います。「資源の有効活用」についてもう少し記載するべきなのかどうか、上位計画ではどのように考えているのかとお聞きしました。これから詰めていく話であると思います。

深野会長：循環型社会における「廃棄物」と「資源の有効利用」について、優先すべきは廃棄物ですが、環境基本計画の中の扱いによっては一般廃棄物処理基本計画でも補完するような記述が必要なのではないかというご意見です。

植地次長：現在のところ、環境基本計画と特段の摺り合わせは行っていません。

深野会長：今後調整を図ると思いますが、環境基本計画の策定に関してはこれからということですね。

安倍職員：資源の有効活用については、国の第3次循環型社会形成推進基本計画で強調されており、循環利用率などが指標として書かれていますが、自治体として循環利用率を測るのは難しいと

思い、今回の理念では掲載していません。資源化については今後も進めていく必要があります、課題として新たな資源化を入れていますが、理念の中で資源化の文言を強くすべきということであれば検討したいと思います。

橋詰委員：今回、食品廃棄物に焦点を当てるとすると、鎌倉は食品を提供する産業が多いということであれば、ごみの観点だけでなく資源の有効利用という観点を入れることができると思います。

安倍職員：資源の有効利用は、基本方針4の適正処理に含められているとも言えますが、「資源化」という言葉の特出しさせた方が良いかもしれません。

深野会長：適正処置は包括的な概念なので、「資源の有効活用」も含ませた表現にするのが良いという意見ですね。

橋詰委員：小型家電リサイクルについては、どう見れば良いのでしょうか。

安倍職員：小型家電については、3Rの一つとしてのリサイクルしか関連する部分はありません。今回の計画の方針1は、2Rを中心とした基本方針としているので、リサイクルについての書き方が弱くなっているかもしれません。「資源の有効活用」については、行政として基本方針4以外の部分で加えた方がよいでしょうか。

奴田委員：一般廃棄物処理基本計画について、基本方針1の2Rは、あくまで新しい施設ができるまでの問題です。もちろん施設ができた後も続けていかなければいけないのですが、新しい施設を整備するというところに重点を置いた方が良いのではないのでしょうか。その間に我々市民が何をできるかです。具体的に候補地が決まっているのですから、私は新しい施設を早く整備するというところに重点を置き、その間に1から5までの基本方針に示されていることをやっていく方向としたいです。施設は1年や2年ではできません。施設の建設を優先するべきだと思います。この表記ですと、なにか文章だけで終わってしまうような気がします。

深野会長：基本方針6を最優先とするべきではないかというご意見ですね。

奴田委員：ゼロウェイストなんてあり得ないと思います。どんなにリデュースやリユースをしてもごみは出ます。先日入院したのですが、紙おむつや手袋などは、封を開けたり、ちょっと触れただけでも捨ててしまいます。あれでは病院から大量にごみが出ます。アンケートにもありましたが、なんとかならないものかと思いました。

深野会長：現実的にゼロウェイストというのは難しいと思いますが、目指すということで記載されているのだと思います。病院は衛生面も重要であると思いますが、それにしてももったいない気がしたということですね。

奴田委員：事業所のごみ減量ワークショップでもありましたが、経営者が削減を意識しても、看護師などが捨ててしまうのではないかと思います。実感では、1割か2割は削減できるのではないかと思います。

橋詰委員：ゼロウェイストという言葉について、ゼロは「最終処分量を限りなくなくす」という説明文がありますので、そういうことなのではないのでしょうか。基本方針について、基本計画に対する書き方がさらっとし過ぎていると思います。基盤的な施設なので、防災機能のことなど、もう少し書き込んでも良いと思います。

深野会長：色々なことに配慮して記載されていると思いますが、文章にもう少しメリハリをつけると良いのではないかというご意見ですね。

久保田委員：私も基本方針6について、ごみ焼却施設の建設が、遠慮して後ろの方に記載されている感じがします。ごみ新焼却施設については切実な問題なので、一番下に書くのではなく、担当部

として、市民に向けて方針的なものを出してはどうでしょうか。

深野会長：基本方針の6は1番目でも良いのではないかというご意見ですね。

小池次長：確かに新ごみ焼却施設は鎌倉市にとって、本当に重要な課題だと思っています。ただ、ごみそのものを減らす、あるいは資源化するということは、これからも続いていくことです。焼却施設についてもなんでも燃やしてしまうわけではありません。ごみの減量や資源化をしたうえで、それでも出てきたものを燃やすという考えです。基本方針の1から5はまさにそのことを記載しています。基本方針の作りからすると、まず減量、資源化があってその次に焼却という構成でご提案しています。

浅川委員：市民アンケート調査結果においても、ごみ分別に取り組むための理由として「焼却施設の閉鎖」とした回答は1割程度でした。計画は国の指針に基づいた構成になっていると思いますが、一方で、「鎌倉のごみ処理の現状がこのようになっているから取組みの必要性がある」と言えるのではないかと思います。今泉クリーンセンターの停止についても、P10に記載のとおり、文言として整理するところなるのかと思いますが、ごみを処理する側の立場としては、1施設になるということはかなり厳しい状況になると感じています。今後の10年間で3万トン以下にするということは大きな課題と記載されていますが、もっと市民の皆さんにも危機感を持っていただき、「だからこそ、こういうことが必要です」と導いた方が良いと思います。事業系ごみの値上げや家庭系ごみの有料化など、市としては十分取り組んでいると思いますが、どうなるのかわからないのが現状です。そういった状況の中で、現状が厳しいということをもっと言い続ける必要があると思います。

深野会長：新ごみ焼却施設の答申を控えた時期という面もあるかと思っています。事務局の説明のとおり、施策を行ったうえで残ったものを処理するという流れを考えると、計画の方針としてはこの順番かと思っています。しかし、非常に厳しい状況であることは間違いないので、もう少し意図がくみ取れるような表記にした方が良いかもしれません。それらを踏まえて意見交換したいと思います。P3を中心に議論していますが、先ほど話があったP10の「ごみ処理に関する課題」についても議論をお願いしたいと思います。課題の表記には、ワークショップやアンケートの結果が加わり、非常に実証的で、あまり他に例を見ないのではないかという印象を受けました。P15の「5. 市民、事業者、滞在者と行政のパートナーシップに関する課題」で、観光客が2,000万人未満から急に2,300万人に増えているようですが、事務局としてどのように認識していますか。

内海担当課長：おそらく鎌倉を舞台としたテレビドラマなどのマスコミの影響で観光が増えたと聞いています。

久保田委員：先ほどの基本方針について、新たな焼却場の問題は市民も非常に関心を持っているため、基本方針に打ち出していく必要があると思います。P9の資源化率の評価においても、市民の努力の結果と記載されています。分別・有料化の説明会に参加した際に、参加者はみんな真面目だと感じたため、そういう積極的な気持ちが継続していただけるよう、配慮していく必要があります。あと、P15の上から3行目に「処理技術の動向を踏まえ」とありますが、議会中継において議員が質問の中で、他都市における資源化の事例を紹介しているのを見かけました。事務局としても事例を勉強・把握し、鎌倉市の処理方法に活用することなどもお考えなのでしょうか。

小池次長：新たな資源化方法については、他市状況などを踏まえて現在も検討しており、今後も検討し

ていきます。お話にあったとおり、高いリサイクル率については市民の分別の努力のおかげであり、資源化に対する意識も高いと感じます。資源化の先進事例については、常に把握しておく必要があると考えています。

久保田委員：声かけふれあい収集というのは、現在何世帯くらい実施されているのでしょうか。

内海担当課長：平成 25 年度末で 530 世帯であり、毎年やや右肩上がりとなっています。

保坂委員：基本方針 2 において「環境教育を積極的に」と記載があつて良いと思いますが、今のところ第 4 節には関連する文言は無いようです。小中学校の場合は、学習活動としてごみに関する授業が実施されていますが、一時的なもので終わっていて日常につながっておらず、何か工夫が必要ではないかと思います。また、若い時に意識を植え付ける必要があると感じます。よって、「教育現場との連携」として課題に盛り込んではどうでしょうか。長い目で見れば効果はあると思います。環境部と教育行政の連携などを述べられれば良いと思います。

深野会長：基本方針 2 にある環境教育について、第 4 節にも明確に記載し、教育現場との連携といった考え方をぜひ取り入れて欲しいというご意見です。知識だけでなく、体験を通じて身につけていくという面では、教育現場というのは非常に有効かと思います。

大道委員：基本方針 2 の「環境教育に積極的に取り組みます」の後に、例えば「取り組みや行動の後押しをします」などの言葉を入れてはどうでしょうか。基本方針としてはそういう具体的な書き方はしない方が良いでしょうか。

深野会長：通常では基本方針ではあまり具体的には記載しないため、詳細については第 4 節や他のところで記載した方が良いでしょうか。

大道委員：言葉だけが動いている印象ですが、実際には方針のみではなく行動が伴わないと結果は出てこないの、「行動に対して積極的に後押しします」などの言葉がどこかに入っていた方が、消費者、事業者が「自分が動かないと」と感じるのではないのでしょうか。行動を起こさせるような言葉を、積極的に肉付けした方が良いでしょうか。どこの部分に入れると良いのか分かりませんが。

深野会長：基本方針ですので、多くを追加することはできないと思いますが、もう少し実践に繋がるような表現を強めた方が良いでしょうかということですね。

橋詰委員：P14 の経費については、読み手の理解を深めるためにも、もう少し情報を書いても良いのではないのでしょうか。鎌倉の場合は、地形的な問題や（焼却灰の）全量溶融固化など、経費が高くなる実態を抱えていることに加え、施設整備の件もあり、お金をかけないといけない状況にあることをはっきり記載し、理解していただいた方が良いでしょうか。

深野会長：経費についての記述が「神奈川県内よりも高く」と一言だけなので、なぜ高いのかということについて、（焼却灰の）全量溶融固化を実施している背景などを含め、もう少し記述した方が良いでしょうか。

浅川委員：この審議会に参加させていただいて、自身の常識が覆りました。高価な処理を行っていると思っていましたが、鎌倉市ではそうせざるを得ない状況であり、その経費としては必ずしも高くないのではないかと思ひ始めました。焼却灰の溶融固化のコストは確かに高くなりますが、最終処分場を設ける労力や経費を考えると、簡単に結論は出ないと思います。安いと言われている神奈川県下の自治体の最終処分方法を勘案すると果たしてどうなるか、ということにもつながると思います。逆に最終処分場がなくて良いのかという新たな疑問もあります。災害対策としてはものすごく大きな要素を持っていますが、鎌倉市は確保できる状況にない

ため、なかなか難しいとも思います。高い、安いというのは一概には言えないと思うので、「こういう状況なので現状がある」ということを市民の皆様に分かりやすく説明すると、より理解を得られると思います。

深野会長：コストが高いという理由をもう少し詳しく書くとともに、高いから悪いというわけではなく、そうせざるを得ない理由があるといった色々な要素が含まれているということですね。書き方が難しいと思いますが、意見として捉えていただきたいと思います。

浅川委員：東京 23 区は、焼却灰を全量溶融固化する方向性で施設整備を進めました。非常にコストがかかりますが、最終処分場にそういった処理をしないと受け入れないという規制があったためです。しかし、これまで埋め立てていた廃プラスチックを焼却する方針に転換したことによって、埋め立て量が極端に減り、最終処分場の寿命をかなり延長できました。また、溶融固化については、処理にエネルギーを大量に使うのに、有効利用が思ったように進まないという現状もあり、やめることになりました。現在は溶融に変えて、有用金属の回収など、灰を有効活用する方向性を探るということで、セメント化の実証に取り組んでいます。いずれにせよ、最終処分はごみ処理の生命線なので、とても大事なことだと思います。

深野会長：単にコストの高さでの判断ではなく、複眼的な視点や様々な要素がつながっていることが理解できるようになれば、さらにすばらしい基本計画になると思うので、工夫をお願いいたします。

久保田委員：P12 の③、「分別についてさらなる周知徹底を図る必要があります」という部分ですが、先日配布された「資源物とごみの分け方・出し方パンフレット」は大変分かりやすいので、パンフレットを作成したことについて記述を入れてはいかがでしょうか。市が実施していることもきちんと記載した方が良いと思います。

深野会長：事務局の意向をもっと強くというご意見ですが、小冊子の名前だけでも入れれば、初めて読んだ方の気付きにもなるかもしれません。最後の P16 の推進体制について、前回と大きく変わっていないとのことですが、進行管理としてアクションプログラムで P D C A をかけていくことは当然必要と考えています。他に気付いたことがあれば、事務局にご連絡いただければと思います。

石井部長：夜遅くまでご議論いただき、ありがとうございます。状況としては、現計画の最終年度に向けて減量するというのと、平成 28 年度以降の計画をどう作り上げていくのかということについて、大事な局面を迎えていると思います。今回、市からのメッセージをはっきり出すべきだということを強く感じました。今の状況を強く打ち出すことによって協力を促すなど、そういったことも含めながら、第 3 次基本計画をまとめていきたいと思います。来年度は、具体的な施策をどうしていくのかという大きなテーマがあるため、ぜひよろしく願いいたします。

その他 1 次回の当審議会の開催日程等について

深野会長：最後に、その他として次回開催日程についてお願いします。

内海担当課長：今回は 3 月 25 日（水）午後 2 時から 4 時まで、市役所本庁舎の全員協議会室での開催を予定しています。開催通知は別途送らせていただきます。

深野会長：以上で本日予定されていた議題はすべて終了いたしました。これを持ちまして第 11 回鎌倉市廃棄物減量化及び資源化推進審議会を閉会いたします。ありがとうございます。